

七月の法座・行事

- 八日・同朋の会例会
大阪教区第七組
教應寺住職
建部 智宏 師
 - 十一日・従如上人御祥月御命日 (午後二時)
 - 十二日・闍如上人御逮夜・常永代経 (午後八時)
 - ・報恩講習礼(寺族対象) (午後二時)
 - 十三日・闍如上人御命日 (午後五時)
 - 二十五日・宣如上人御祥月御命日 (午前八時)
 - 二十七日・宗祖聖人御逮夜 (午前八時)
 - 兼 定例法話
大阪教区第十三組
善福寺住職
野村 正示 師 (午後一時半)
 - 二十八日・宗祖聖人御命日 (午前八時)
- ※諸般の事情により、今月の定例法話は二十七日に開講致します。お間違えのないようにお願い致します。
尚、今月の正信偈書写の会はお休みさせていただきます。

◆永代経志納

法名 山下家先祖代々
ご進納ありがとうございます。
別院崇敬護持のため、
大切に使用させていただきます。



◆今月の天満別院伝導掲示板

老いをさらい
病をおそれ
死をかくせば
生もかくれる

※皆様、是非一度、天満別院ホームページもご覧下さいませ。



太田石材店

霊園・墓石
本社 〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18号
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

編集後記

FIFAワールドカップロシア大会ですが、日本の躍進もあり国内は大盛り上がりを見せています。親善試合も勝てずに前評判は決して高くなく、監督も大会直前で交代。私自身そこまで関心は高くありませんでしたが、初戦だけ観ようとの思いから、今の盛り上がり手に手のひらを返して懸命に応援しています。自分勝手だなど思う今日この頃です。朝おきが辛い。
堀河

六字城

「和讃のおはな」

真宗大谷派 鍵役
宣心院 大谷 暢文

『現世利益和讃(十五)』

南無阿弥陀佛をとなふれば

十方無量の諸佛は

百重千重^{いよいよ}圍繞して

よろこびまもりたまふなり

(私たちが南無阿弥陀仏と称えたならば、十方にいらつしやる無量の仏がたが、百重にも千重にも取り巻いてくださり、その上私たちが喜び護ってくださいます。)

発行

真宗大谷派(東本願寺)天満別院
大阪市北区東天満一-八-二六

電話 六三五一一三五三五
代表者 輪番 武宮 信勝

このご和讃も、前回と同じく『観無量寿経』に依っています。真身観の「この事を見るものは、すなはち十方の一切の諸佛を見たてまつる」がもとになっており、このことにより十方諸佛の護念が明かされています。

「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えることによつて、十方無量の諸佛が私たちをお護りくださるということは、今までのご和讃に数多くありました。それらのご和讃をいただくことによつて、あらためてお念仏の不思議さを思わずにはいられません。不思議という「わからないこと」という意味に思われるでしょうが、単に「わからない」「理解できない」ということでなく、私たち人間の力を大きく超えた力をそこに感じます。お念仏を称えると、この私の口から「なむあみだぶつ」という声が出てきますが、この「南無阿弥陀仏」は、私の力で生まれたものではなく、この私、あるいは人間というものを超えたお力によつていると感じざるを得ません。それが、いわゆる「他力」というものなのでしょう。さらにより鮮明に言うならば、それが阿弥陀さまのお

力ということに他なりません。このご和讃にあるように、十方の諸佛が私たちをお護りくださる「百重千重^{いよいよ}圍繞してよろこびまもりたまふなり」という表現が、私たちによりいつそうの感動を与えてくださいます。この部分は、善導大師の『往生礼讃』の後序の「また前の二十五菩薩と百重千重行者を圍繞して、行住坐臥、一切の地処を問はず、もしは昼、もしは夜、つねに行者を離れたまはず」によつての表現なのでしょうが、この『往生礼讃』とあわせて見ていくと、十方の諸佛が、今まさにこの私に働きかけてくださることを実感できます。そして、このように十方の諸佛を私たちの方へ差し向けて下さっているのが阿弥陀さまなのです。

「南無阿弥陀仏」と称えていない時でも、阿弥陀さまのお力によつて私たちは、十方諸佛に護つていただいています。今この私阿弥陀仏」と称えることにより、今この私を、仏さまより護つていただいていることを、実感として感じられるのではないのでしょうか。

輪番雑感

「大阪北部地震」から
輪番 武宮 信勝

六月十八日午前七時五十八分、別院職員一同で晨朝(おあさじ)中であった。激震がはしり一同声明の声を止めた。存如上人の御命日でもあって燭台の朱蠟がすぐ気にかかった。消火のため職員が対応。余震を気にかけて御本尊「阿弥陀如来像」を持ち出しでけるよう処置。震度六弱という情報を得た。本堂建物の内部・外部の破損視察。墓地の石塔の倒壊視察など。とにかく今できる行動を手分けして職員が動いてくれた。別院の周りは高層のビルが立ち並んでいる。幸いにも別院をふくめ崩壊した建物、物品は確認できないことに、不安な胸をなで降ろしたことでした。時間とともに各地区の被害状況がテレビ画面に報道される。特に茨木市・高槻市・牧方市の様子が流れ、女兒・老人のブロック塀の下敷きになって死亡されたことに深い悲しみをいだいた。一週間が過ぎたころ被害の全容がほぼ明らかになり四府県で死亡者五名、負傷者四〇六名。避難者二六八名・住宅被害八〇八九棟。立ち直りには何年もかかることでしょう。みんなで支援し続けていきたいと願わ

ずにはおられません。私にも、地震を案じ全国各地の人々から電話・メールが四〇件ばかり寄せられました。心配してくれて「ありがとう」と真摯にいただきました。人はたくさんの人々に心配され、案じられて生きていくということを実感しました。犠牲になつた女兒(九歳)の通う寿栄小学校正面に設けられている献花台には、ぬいぐるみや花束が今もあとを絶たないと聞いている。大切なものが失われたことに数多の人々が悲しんでおられるのです。
今や地震被災・津波・台風災害、大雨水害はいつ、どこでおきてもおかしくないと言われています。宗祖親鸞聖人は、晩年(八十八歳)お手紙の中で、地震・水害等で人がなくなっていることに、あわれなことがおきつづけていることを悲しみつつ「生死無常のことわり、くわしく如来のときおかせおわしましてそうろううえは、おどろきおぼしめすすべからずそうろう」(末燈鈔六 真宗聖典六〇三頁)と述べられています。
生きている現実の状態は、生死無常のことわりの中でのこと、あらためて厳しく引き受けなければならぬと思わされました。

◆通常院議会報告

去る六月十六日午後四時より通常院議会議が開催され、左記の議案の審議が行われました。

- 第一号 二〇一七年度経常部歳入歳出補正予算(案)について
 - 第二号 二〇一七年度事業部歳入歳出補正予算(案)について
 - 第三号 二〇一七年度経常部歳入歳出決算書について
 - 第四号 二〇一七年度事業部歳入歳出決算書について
 - 第五号 二〇一七年度本坊運営資金収支計算書について
 - 第六号 二〇一七年度墓地運営資金収支計算書について
 - 第七号 二〇一七年度退職給付積立金収支計算書について
 - 第八号 二〇一七年度整備事業積立金収支計算書について
 - 第九号 二〇一七年度有価証券勘定書収支計算書について
 - 第十号 二〇一七年度期末現預金・有価証券勘定書について
 - 第十号 二〇一七年度期末現金・預金・有価証券勘定書について
 - 第十一号 二〇一八年度経常部第一次 歳入歳出補正予算(案)について
 - 第十二号 二〇一八年度事業部第一次 歳入歳出補正予算(案)について
 - 第十三号 教化委員会規則変更について(その他報告事項)
- 以上十三案件について審議が行われ、全会一致で承認されました。ご門徒さまには、別紙にて詳細な報告をしています。

◆門徒会総会報告

去る六月二十四日午後四時より門徒会総会が開催され、左記の報告が行われました。

記

- 第一号 天満別院門徒会 平成二十九年度事業報告
 - 第二号 天満別院門徒会 平成二十九年度会計報告
 - 第三号 天満別院門徒会 会計監査報告
- 以上三案件について審議が行われ、全会一致で承認されました。

◆教区同朋大会に参加して思う

推進員 矢裂 隆司

難波別院の本堂だけでは足らず、講堂にも席が設けられていました。こんなにも多くの門徒が集う同朋の会とは何だろうか。真宗門徒が集い法話を聞き、知識を得て人から人へとつなげていく事が大切なのだろう。人は年老いていく中で健康でも、有能でもありたいと絶えず思っている。

講演された酒井義一先生の言葉で「人と生まれれば必ず悲しみや苦しみが有る。そして楽しみも有るが大半は、

◆暁天講座のご案内

左記の日程で暁天講座を開講致します。

記

日時 八月六日(月)、七日(火)
両日ともに午前六時三十分より

講師 大阪教区第六組 願光寺住職

茨田 通俊 師

会場は別院一階講堂になります。聴講は無料です。尚、講座終了後には軽食を用意しております。一人でも多くの方のご聴講をお待ちしております。

◆夏の御文法要勤修

去る六月二十三日、二十四日の二日間にわたって夏の御文法要が勤修されました。法要では蓮如上人が書かれた四通の『夏の御文』を二日間にかけて拝読し、法要後の法話には両日ともに天満別院輪番 武宮 信勝にお話いただきました。外は大変蒸し暑い中、多くの方にご参拝いただきました。

「たすけるが念仏」、「たすかるが信心」という教えをはじめ、私たちが念仏を申すことができているのは如来様が念仏申せよとおっしゃってくださいているからだということ、また安らかなる心はどうしたら生じるのかを夏の御文を通してお話いただきました。



夏の御文法要の様子